

## 簡易版 TP (ティーチング・ポートフォリオ)

氏名	原田 省吾
所属機関名	教育学部 初等教育学科
職位	准教授
在籍年	8 年

## 教育の責任

家庭科教育学を専門とし、初等教育学科では教員免許状取得のために必修である「初等家庭科内容論」「初等家庭科教育法」の授業を単独で担当している。その他に中学校教諭としての担任や生活指導、保護者対応等の経験や、教育委員会指導主事として現職の教員に研修を行った経験から、初等教育学科と中等教育学科で開講されている「教職実践演習」「教育実習事前・事後指導」「ICT活用教育」等の、教育実践に関するオムニバス形式の授業も担当している。

教育の責任は、①小学校教員として家庭科の指導に必要な基礎的知識・技能、②学校教員として学級経営に必要な基礎的知識・技能、③学校教員として児童生徒理解や指導に必要な基礎的知識・技能、④その他学校教員として必要とされる資質・能力、の4つを、小中学校における具体的実践と結びつけた授業や実習を通して習得・育成することだと考えている。

## 教育の理念

教員養成系学部に所属する教員として、「学校教員として必要な知識・技術を習得し、初任時から即戦力として活躍できる教員の養成」に取り組んでいる。

その教育理念は、「学校現場に即して具現化する実践力」を育成する授業を展開することである。これまでの経験から、学校教員に必要な力として、①教育実践力（授業力、学級経営力、生徒指導力）②事務処理能力、③同僚との協働力、④保護者・地域との連携力、が必要であると考えている。

## 教育の方法・方針

家庭科に関する授業では、小学校家庭科を指導するために必要となる基礎的な知識・技能の習得をめざしている。家庭科と言えば「調理実習」「被服製作実習」というイメージが強いが、これらの実習を指導するためには教師自身が調理や製作の技能を身につけるとともに、それを児童に分かりやすく教える技能も身につけなければならない。そのため、「児童にとって難しいと感じる部分はどこか」「どのような発問や指示をすれば児童にとって分かりやすいか」を児童の立場になって分析し、その上で自分ならどのように指導したり説明したりするのか検討するようにしている。この方法は、実習以外の授業を構想する際にも有効な手段であると考えている。また、授業実践経験のない学生にとって少しでも理解しやすいように、①学生がこれまで受けてきた家庭科授業の具体的な場面を想起させ、私の経験談も含めながらテキストに書かれている理論が実践とどのように結びついているのかをより詳細に説明する、②文字のみで書かれていることも理解を難しくしている要因の1つと考えられるので、パワーポイントを用いて図解版を作成し説明する、の2点を工夫するようにしている。

ICT活用教育では、学級経営や校務分掌における Word や Excel の活用法について説明し、実際に操作しながら技能習得を図ることにしている。実習時の課題を「授業参観および保護者

会の案内文書の作成」「成績処理用の Excel シートと度数分布表の作成」「差し込み印刷機能を活用した三者懇談会の案内文書の作成」「Word のさまざまな機能を利用した学年通信の作成」とし、学校現場で実際に求められる文書を作成しながら各ソフトの技能が習得できるようにしている。この方法により、教員の過重労働が叫ばれ負担軽減を求める声が大きくなる現状において、学級経営や校務分掌の仕事を少しでも効率的・能率的にこなせるように ICT を活用できる力を育成できると考えている。

## 教育の成果

家庭科に関する授業評価アンケートの記述では「自分自身の生活と結び付けて考えられた」との記述があり、大学で学んだ理論を实践に結び付けようとしている姿が見て取れた。ここでは家庭生活での実践に結び付けているが、大学で学んだ理論をいかに実践していくか、その方法に気づくことができたものと考えられた。また、「結構先生が現場の話をしてくださったので、イメージしやすかったり、参考になる部分がたくさんありました」との記述から、学校現場の話が学習指導案の作成や模擬授業の際に、一定の効果があつたと推察することができた。

ICT 活用教育では、保護者向け案内文書や成績処理など、教員が実際に行っている作業を課題として実習を行った結果、授業評価アンケートの記述では「ここで学んだ ICT の意義や活用方法、重要性や危険性のすべての項目について再度考えながら、よりより授業づくりをおこなっていけるように準備しておきたいなど改めて思いました」「教育実習に行ったときの最初の挨拶にも使えそう」という声を聞くことができた。担任業務や校務分掌の仕事をこなすための ICT の活用法について理解し、技能習得もほぼできたものと考えられた。

## 今後の目標

教育理念を具現化し、その教育の効果をさらに発展させるために、以下の目標を設定して取り組んでいく。

### (1) 地域の小中学生や大学生との交流の場の設定

小中学生の実情を知る機会として、あるいは大学での学びを実践する機会として、さらには他の学生と交流し人との関わりを学ぶ機会として、以前本学で実施した国際料理教室やモンゴル国立教育大学生との共同授業や教材開発などに継続して取り組む。

### (2) 学会や学校主催の研究会への参加

学会や各学校主催の研究発表会に積極的に参加し、先進的な授業実践に触れるとともに児童生徒の実態把握にも努め、その時その時に求められる教員の資質・能力の育成に即応できるようにする。

## 根拠資料

授業評価アンケート